

(1) (3) 2016年 (平成28年) 1月12日 火曜日

# 大垣にCAV開発拠点

## キャリア技研、2月にも始動



大垣の拠点を東ねる大竹輝幸グループ長(中央)ら



富田茂社長

同社は2001年設立。3次元CADなどを使用して設計、造形、計測などを事業展開する。従業員数は140人。各務原市に岐阜本社、岐阜県御高町に実験

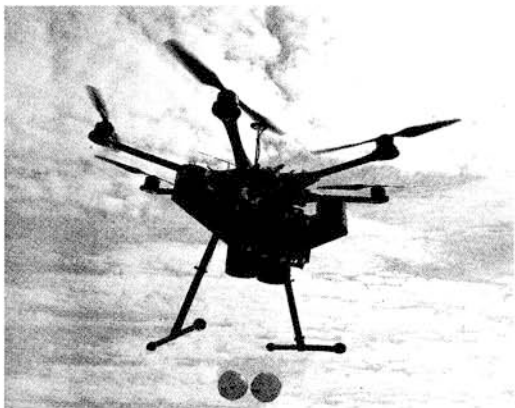
## 3年後、50人体制へ 現地技術者採用も検討

三次元CAD設計のキャリア技研(本社名古屋市中村区名駅・オーキッドビル4階、富田茂社長、電話052・627・0495)は、大垣市加賀野のソフトピアジャパンエリア内に、CAV(Computer Aided Vision)3次元画像認識システム)の開発拠点を新設する。早ければ2月中に始動する計画。本社から同開発機能を移転させるもので、専任スタッフ6人を派遣する。3年後の2019年8月期までに50人体制へ拡大する方針で、現地で技術者獲得にも注力する。(水谷英志)

飛行場を設けている。このほど岐阜県企業誘致課など関係機関と合意し、同社の開発機能の一部移転を決めた。自己資金と県市補助金を活用し、ソフトピアジャパンエリア内の貸事務所に新開発拠点を設ける予定。専任スタッフ6人で立ち上げ、生産部門技術部の大竹輝幸第1グループ長が拠点長を務める。今後、大垣市や情報科学芸術大学院大学(IAMAS)とも連携を進める方針。

同社は自社開発商品として、無人飛行消火ロボット「SARAIXF」(商品名)を13年に市場投入している。同商品は、CAVとの併用で消火活動を効果的に行うロボット。無線カメラと衛星利用測位システム(GPS)搭載のドローンを活用している。上空から火元の位置を特定し、カメラで詳細な位置を確認した上で、市販の消火ボールを的確に投下する仕組み。鎮火確認機能も有する。このほど愛知県消防学校で実証実験を実施。その成果を今月26日に名古屋市内で報告する予定。富田社長は「大垣市の新開発拠点は、CAVの高度化に向けた役割を担う。CAVの高度化により、仮想状態で2〜3割摩耗させた歯車を構築して異常を確認することができる画像認識システムの開発などが可能となる。高度な技術を確立させることで、機械部品業界など製造業の発展に寄与したい」と話している。

## 大垣にCAV開発拠点



NEWS  
ピックアップ

三次元CAD設計のキャリア技研(名古屋市)は、大垣市加賀野のソフトピアジャパンエリア内に、CAVの開発拠点を新設する。早ければ2月中に始動する計画。本社から同開発機能を移転させるもので、専任スタッフ6人を派遣する。3年後の2019年8月期までに50人体制へ拡大する方針で、現地で技術者獲得にも注力する。

(記事は3面に)